03

株式会社九州アグリコール太良

太良町糸岐

この茶畑と
産地を守れたこと
農業を通じた
地域への貢献に

キッカケ

標高約300m、太良町糸岐地区の谷間に広々とした茶畑が広がっています。以前、県外の生産者が管理していた茶園を、離農のタイミングでそのまま引き継いだのが、平成28年設立の九州アグリコール太良です。長崎県佐世保市に本社を置く吉田海運のグループ会社で、主な事業は茶園および荒茶加工工場の運営。平成30年には、同地区にある太良みかん卸売販売選果場を行う株式会社カネタも吉田海運グループの一員になりました。農業への参入とともに、不耕作地の活用にも積極的に取り組んでいます。

組織概要

大正8年、長崎県佐世保市での国鉄の荷役から始まった吉田海運株式会社。創業時から大切にしているのが、安心・安全第一はもとより、人財を活用した一歩先へ行く、質の高い物流サービスへの挑戦です。「お客様をはじめとする皆様の需要や課題にお応えし、地域社会に貢献する」ことを使命に、現在は総合物流企業として、運送や倉庫の運営、製造・生産、整備など幅広い事業を展開しています。農業法人の九州アグリコール太良を設立したのは平成28年で、生産活動を通して地域の流通と雇用を促進。コア事業である物流部門を連携させることで、効率化を進めています。

中山間地域での挑戦

永石 弘之伸さん

- **大手飲料メーカーと専属契約した茶園を運営**

  大手飲料メーカーと契約し、全量買い取りを前提とした茶葉を生産。全国のスーパーや自動販売機などで提供される、ペットボトル飲料の原材料として使用されている。約10haの圃場からスタートし、現在は太良町以外もあわせて約26haを管理運営。

- **柑橘とぶどう栽培で稼げる農業を**

  太良みかんなど地元農産物を取り扱うカネタでは、中山間地の樹園地や不耕作地を活用して、シャインマスカットなど高級品種のぶどう栽培をスタート。県の支援制度を活用して、複合経営による収益向上を目指している。

池田 均さん

つながり

離農は不耕作地が増加する大きな要因で、一旦荒れてしまうと元に戻すのに時間と労力がかかります。手入れが行き届いた茶園を荒らすことなく、茶葉栽培で農業参入を目指していた吉田海運とマッチングできたのは絶好のタイミングでした。嬉野の茶農家だった池田均さんを農場長に迎えるなど、地域と連携して雇用も創出。「全量買い取りの契約栽培で、JGAP（農業生産工程管理）認証取得など徹底した品質管理のもとお茶づくりに取り組んでいます」と池田さん。誰もが知るペットボトルのお茶に、自分達が育てた茶葉が使われていることが一番のやりがいです。

耕す未来

嬉野市より温暖な気候の太良町では、同じ条件で栽培した茶葉が10日ほど早く収穫できます。現在、太良町を中心に約26haの茶園を管理運営していますが、将来的には50haまで拡大する予定です。「吉田海運グループは、“農業には伸びしろがある。みかん以外の農産物もどんどんやっていこう”と積極的です」と永石さん。不耕作地を活用した高級品種のぶどう栽培など、複合経営で収益向上を目指せるのは、企業としてのチャレンジがあってこそ。圃場は今後も広げる予定で、生産物の流通には吉田海運グループのネットワークを活用し、佐賀と全国を結びます。